



## TDK株式会社

世界屈指の電子部品メーカーとして世界各国に研究開発・生産・販売拠点を持ち、海外売上げ比率の90%以上を海外が占める先進的なグローバル企業として国内外で広く知られています。

所在地：東京都港区芝浦三丁目9番1号  
芝浦ルネサイトタワー

設立：1935年12月7日

資本金：32,641,976,312円（2015年3月末時点）

従業員数：88,076人（2015年3月末時点）

URL：http://www.tdk.co.jp/

（取材日：2015年11月）

## POINT

1 拠点ごとにばらばらだったID管理ポリシーを統一、セキュリティとITガバナンスの強化を実現

2 ID管理基盤をLDAPに集約したことでID管理業務の大幅な効率化を実現

3 UNIX/Linuxシステムの認証基盤をLDAPに集約することで全社SSOの取り組みを促進

## 「LDAP Manager」による統合ID管理の実現で、社内セキュリティの強化と、社員の『使いやすさ』を向上

国内外に多くの拠点を構えるTDKでは、各拠点ごとに個別にActive Directoryを構築・運用しており、セキュリティレベルのばらつきやID管理業務の非効率さが問題となっていました。そこで同社は「LDAP Manager」を導入し、Active DirectoryとLDAPを連携させる形で、全社レベルの統合ID管理環境を迅速かつ低コストで実現しました。

## 課題

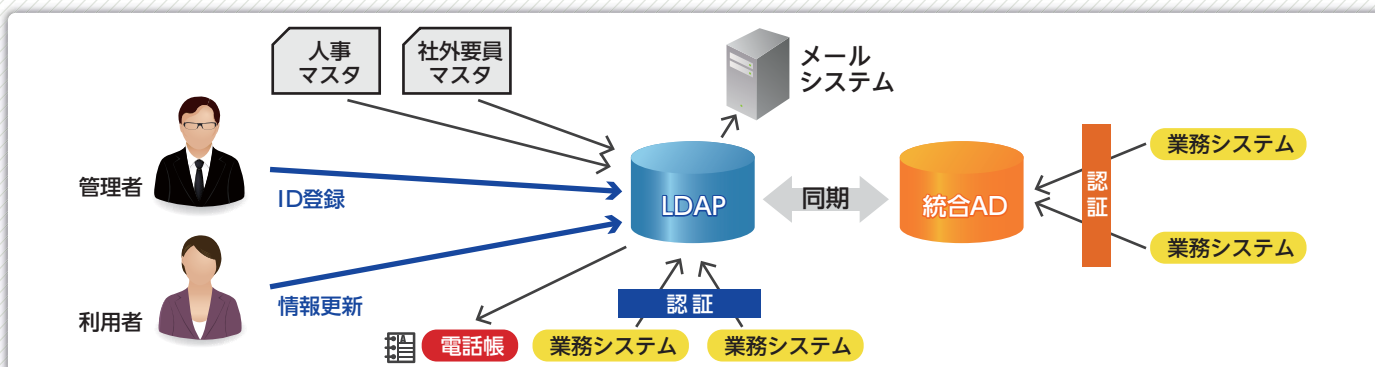
## 対策

## 効果

- 拠点ごとにID管理のレベルがばらばらでセキュリティリスクが懸念されていた
- 拠点・システムごとに重複したID管理作業が行われており非効率だった
- ユーザがシステムごとに異なるID/パスワードを使い分ける必要があった

- LDAPおよびLDAP Managerの導入で全社レベルの統合ID管理基盤を構築
- LDAPに各種システムのID情報を集約し一括管理する仕組みを導入
- 個別に認証を行っていたUNIX/Linuxシステムの認証基盤をLDAPへ統合

- ID管理基盤を統合することでセキュリティポリシーの徹底を実現
- ID管理作業を一箇所に集約させることで作業の効率化とミス軽減を達成
- シングルサインオンの対象システムの拡大でユーザの利便性が向上



# LDAP Manager

## 国内外に散らばる複数のActive Directoryをいかに統合するか

電子部品の製造・販売を手掛けるB2Bのモノ作り企業として、また海外売上げ比率が90%以上を占める屈指のグローバル企業として広く知られるTDK株式会社(以下、TDK)。国内外に数多くの拠点を構える同社は、全社レベルのITガバナンス、特にID管理に長らく課題を抱えていたと言います。経営システムグループ業務ソリューション部部長の中村真一氏は次のように説明します。

**中村氏** 拠点ごとにActive Directoryを個別に構築・運用していたため、セキュリティレベルにばらつきが生じていました。また、拠点間で人が異動するたびにActive DirectoryへのID情報の登録・削除を個別に行う必要があり、作業の抜け・漏れの危険性と常に隣り合わせでした。



中村真一氏

こうした事態を改善するため、同社は2014年に各国内拠点に散在していた20弱のActive Directoryを1つに統合しました。これにより、国内のITガバナンスやセキュリティは大幅に向上しましたが、その適用範囲を海外拠点まで広げ、グローバルでActive Directoryを統合する検討を始めた途端、大きな壁にぶつかりました。経営システムグループネットワークチームリーダー 佐藤卓氏は、当時抱えていた課題を次のように述べます。

**佐藤氏** 統合Active Directoryに何か問題が起こると影響は甚大ですから、なるべくシンプルな形にしたいと考えていました。しかし実際には、各海外拠点で設定・利用しているActive Directoryの項目に大きなばらつきがあり、これを無理やり1つに統合するとActive Directoryの肥大化・複雑化を招く危険性がありました。



佐藤卓氏

## LDAPベースのID管理製品として「LDAP Manager」を選択

この課題を解決するために同社がとった方法

が、LDAPの導入でした。Active Directoryはすべての拠点に共通する必要最小限の項目だけにとどめ、各拠点に固有の項目は別途構築したLDAPのメタディレクトリで管理する。そして、Active DirectoryとLDAPの間で常にデータの同期を取る。こうしたID管理の仕組みを実現するために同社が導入したのが、LDAPをベースにした統合ID管理製品「LDAP Manager」でした。経営システムグループネットワークチーム担当係長 松井裕氏によれば、当初は他の製品も検討の俎上に上がったと言います。

**松井氏** いくつかの製品が候補に挙がりましたが、LDAP Manager以外の製品は機能が豊富な代わりに、値段も高価でした。その点、LDAP Managerは比較的安価なことに加え、必要な機能のみを選んで購入できるため、予算も人員も限られている私たちにとって最適な選択肢でした。



松井裕氏

また、LDAP Managerの紹介を受けたアシストのエンジニアの印象も、選択の大きな決め手になったと言います。

**中村氏** アシストさんのエンジニアの方に製品説明を受けたのですが、こちらの疑問に的確に答えていただき、とても信頼できる印象を受けました。私たちにとってLDAPは未知の技術でしたから、信頼できる方にサポートいただける点は製品選択の重要なポイントでした。

## LDAPとActive Directoryの連携による統合ID管理基盤を実現

2015年3月から始まったLDAP Managerの導入作業は、わずか5カ月ほどで完了し、同年7月には本番稼働を開始しました。LDAPディレクトリには現在、人事マスタをはじめとする各種社内システムからID情報が自動的に集まり、全社の統合IDデータベースとして機能しています。こうしたシステム連携やActive Directoryとの同期は、LDAP Managerが提供するプラグインモジュールで実現しています。

また、LDAP上の各種ID情報をユーザが自らメンテナンスできるインターフェースも、LDAP Managerの機能を使って実現しています。このインターフェースの設計・開発に当たった経営

システムグループネットワークチーム 千原章一氏によれば、その開発は驚くほど簡単だったと言います。

**千原氏** 管理者やユーザが参照・更新できる項目を指定するだけの作業で、簡単に画面を開発できました。一部、LDAP Managerの機能だけでは実現できない要件もあったのですが、アシストさんのサポートのおかげで無事実現することができました。



千原章一氏

こうして、Active Directoryやメールシステム、人事マスタなどに散在していたユーザ情報がLDAP上で集中管理できるようになりました。これにより、各システム上でばらばらに行われていたメンテナンス作業が一本化され、ID管理業務が効率化されたとともに、作業ミスに起因するセキュリティリスクも抑制できるようになりました。

## 今後は海外拠点も含めた全社統合ID管理基盤の実現を目指す

現在同社ではLDAP Managerを活用し、社内システムの利便性や運用性をさらに高める取り組みを進めています。特にユーザにとっては何より、社内システムのシングルサインオンがもたらすメリットが大きいと中村氏は言います。

**中村氏** これまで、Linux系やUNIX系のシステムはそれぞれ個別にID/パスワードを管理していました。しかしLDAPはこれらのプラットフォームと親和性が高いため、シングルサインオン化をLinux系・UNIX系システムにも拡大する事ができ、利用者からも便利になったと評価いただいています。

同社では今後、海外拠点のID情報を適宜LDAPに統合していき、最終的には国内外すべての拠点のユーザ情報を単一のLDAPと単一のActive Directoryに統合する予定です。

**松井氏** この取り組みの過程では、恐らく思いも寄らぬ技術的課題に突き当たるのが予想されます。その際には、これまで通りぜひアシストさんの強力な支援を仰ぐことができればと期待しています。

\*文中のLDAPは、LDAP Directory Serverの略称です。